

# 台湾映画祭 2018

上映作品 (ストーリー)



©mm2 Entertainment Pte.Ltd.

高校時代にバンドを組んでいた主人公・汪正翔たち5人の同級生は、日本で歌手デビューをしながら自ら命を絶ったヒロイン・李恩佩の葬儀で再会。その帰り道、正翔は不思議な老婆に遭遇し、1997年の高校卒業3日前にタイムスリップしてしまう。恩佩の運命を変えようと正翔が奔走する青春ラブストーリー。97年に自動車事故が原因でこの世を去った台湾の伝説的ミュージシャン・張雨生の音楽が作品を彩る。

私を月に連れてって  
高校時代にタイムスリップ  
運命を変えようと奔走する  
青春ラブストーリー

私を月に連れてって

2017年  
(105分)

九州初上映

第13回大阪  
アジア映画祭  
「ABC賞」  
受賞



©Good Image Co. Ltd.

台北のMRT(地下鉄)の駅を舞台にその土地の歴史や文化を盛り込み製作されたシリーズ「台北愛情捷運」。本作はその中の1作で、淡水駅が舞台となっている。幼い時に父親が失踪し、淡水で母が商う魚丸店を手伝いながらバブを開こうと計画する阿給。しかし闇金に騙され母の店まで失う羽目に。そんな時、淡水河で溺れかけている若い男を助けると、なんと自分の父親だという…。

蒼い月が誘うのは過去か未来か…。  
家族の想いが奇跡を起こす！

淡水河の奇跡

2016年  
(109分)

九州初上映



台湾國道(高速道路)の料金所。疾走する車の流れに浮かぶ孤島のようなその場所で、日夜黙々と働く職員番号31番・林嘉縉。シングルマザーの嘉縉は、息子と二人暮らし。2014年1月2日の全面ETC化(それは嘉縉の「職場が失われる」ことを意味する)を目前に控え、その日常には暗い影が差していた。そんなある日、仕事中の嘉縉に一本の電話が入る…。

息子を守るために  
母が下した決断とは…。

川流の島

2017年  
(97分)

九州初上映

2017  
台北電影獎  
「主演女優賞」  
受賞



昭和のはじめの日本統治下の台湾で生まれ、幼少期を戦時下で過ごし、台湾人の友達もできた。しかし、日本の敗戦により焦土と化した日本へ引き揚げた湾生が多くいた。本作は80歳を過ぎて改めて出生の地・台湾と向き合う湾生たちの人生に触れるドキュメンタリー。語りは自身も台中生まれの川平朝清さん、作中のイラストは中国からの引き揚げ者の森田拳次さんがつとめた。

心の故郷  
ある湾生の歩んできた道  
台湾で生まれ、終戦とともに日本に移り、戦後を生き抜いてきた「湾生」の物語

2018年  
(150分)

九州初上映

福岡アジア美術館 8F「あじびホール」(定員100名)

9/13(木)	9/14(金)	9/15(土)	上映開始	9/16(日)	9/17(月・祝)	9/18(火)
川流の島 (97分)	私を月に連れてって (105分)	心の故郷 (150分)	10:30	淡水河の奇跡 (109分)	私を月に連れてって (105分)	淡水河の奇跡 (109分)
心の故郷 (150分)	心の故郷 (150分)	淡水河の奇跡 (109分)	13:30	私を月に連れてって (105分)	川流の島 (97分)	心の故郷 (150分)
	淡水河の奇跡 (109分)	川流の島 (97分)	16:30	心の故郷 (150分)	淡水河の奇跡 (109分)	

※各回完全入れ替え制です。 ※「あじびホール」での飲食はご遠慮願います。 ※全作品デジタル素材、日本語字幕及びナレーション付きです。 ※定員を超えた場合は入場をお断りさせていただきたく事もございます。